

教員と職員の協働、 本当のところ。

-千葉大学アカデミック・リンクで
就職3年目の図書館員から見た場合-



千葉大学附属図書館
学術コンテンツ課
谷 奈穂

もくじ

🍎 自己紹介

🍎 アカデミック・リンクで教職「協働」と言う時

🍎 私の立場から見る教職「協働」

🍎 どうやってより「良く」教員と「協働」するか？(答え、
考え方、具体例)

🍎 まとめ

はじめまして。

🍎 高知県→東京都→千葉県

🍎 就職3年目

🍎 司書資格なし。

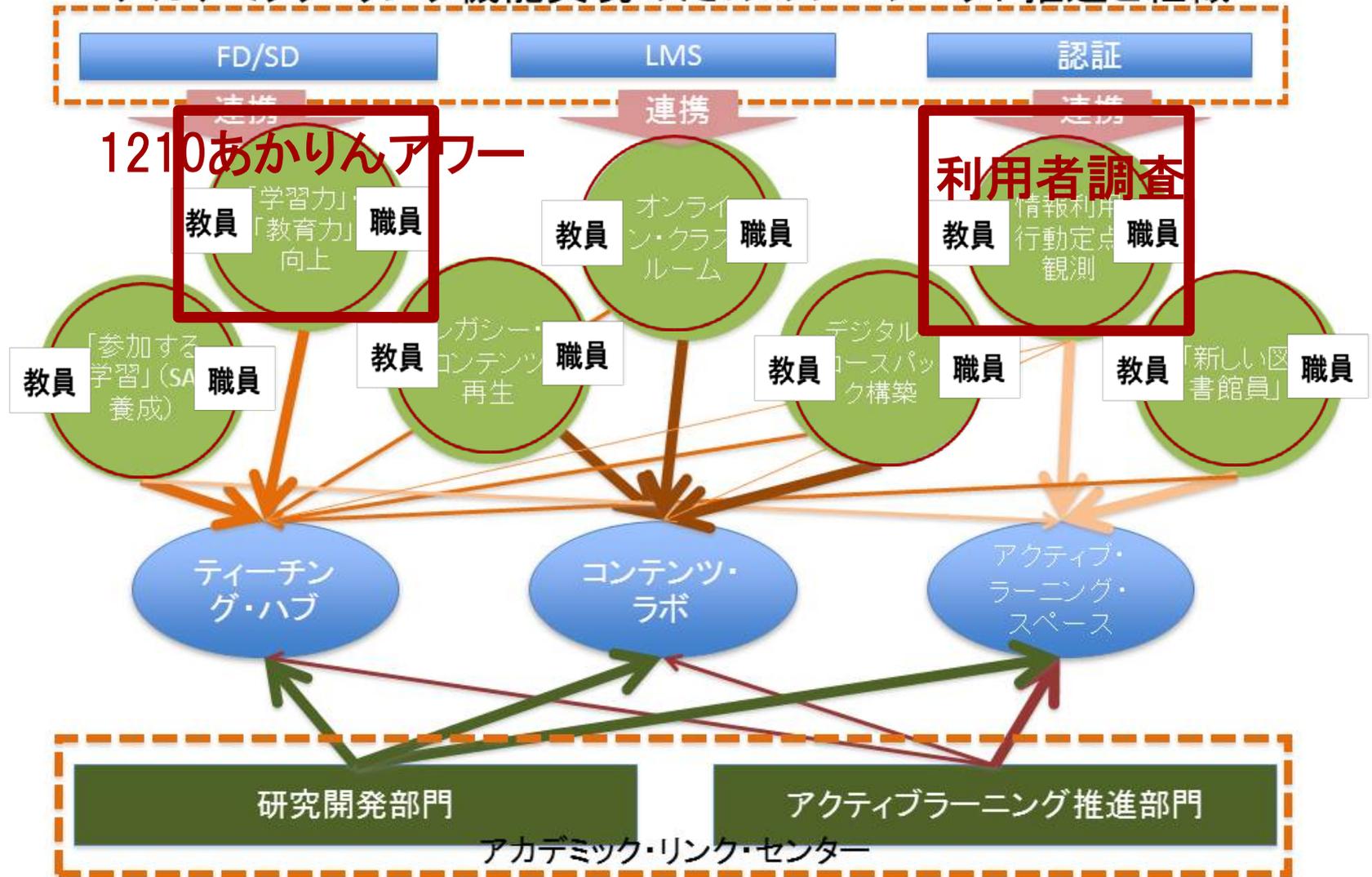
🍎 LiSA経験あり。

🍎 1年目から「アカデミック・リンク」「教員と協働」

アカデミック・リンク

🍎 センター教員(7名) + 図書系常勤職員**全員**(14名)

アカデミック・リンク機能実現のためのプロジェクト推進と組織



アカデミック・リンクで教職「協働」と言う時。

🍎①プロジェクトとして「協働」が前提

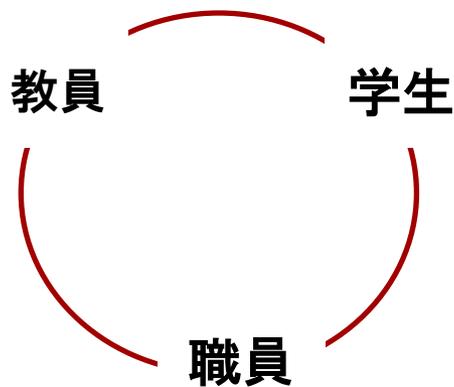
附属図書館

普遍教育センター

総合メディア基盤センター
(H25.4～ 統合情報センター)

アカデミック・リンクで教職「協働」と言う時。

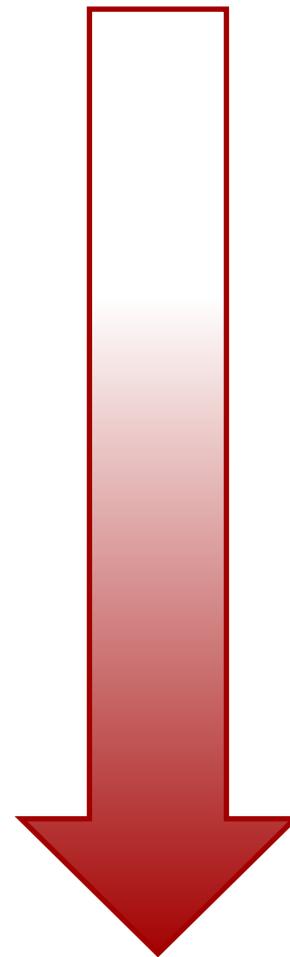
🍎②この前提ありきの、業務での「協働」



こんな仕事をしています。

- 🍎 選書WG事務局
- 🍎 カウンター
- 🍎 レファレンスデスク
- 🍎 推薦図書の手配
- 🍎 授業資料ナビゲータ
- 🍎 1210あかりんアワー
- 🍎 利用者調査

協働度



私の中で「協働度」の高い2つ

1210あかりんアワー(教員3人+職員1人)

- ・企画、登壇者への連絡、広報、当日準備、司会、記録

利用者調査(教員4人+職員5人※)

- ・調査計画、広報、実際の調査、分析、発表

※利用者調査は複数の調査で成り立っており、調査間でも教員職員がまたがって取り組んでいる。私が主に関わっているのはそのうちの「フォーカスグループインタビュー」「フォトボイス」という2つの調査。

私の場合、

 1年目からそこに先生がいて、一緒に仕事をすることになっていた。

 先生の経験値は当然私より全部上。

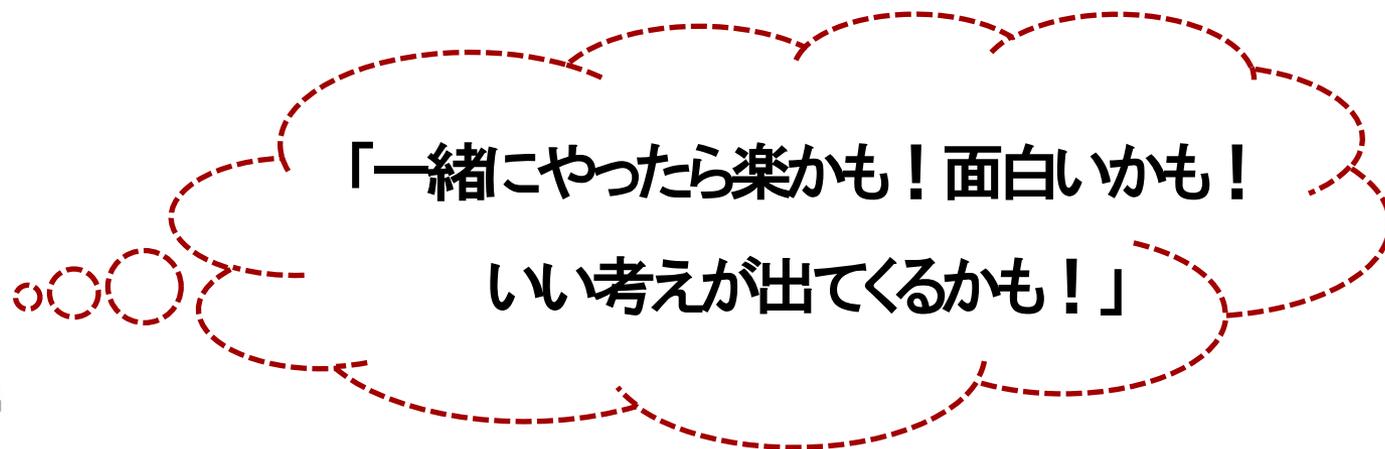
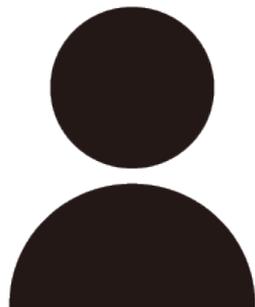
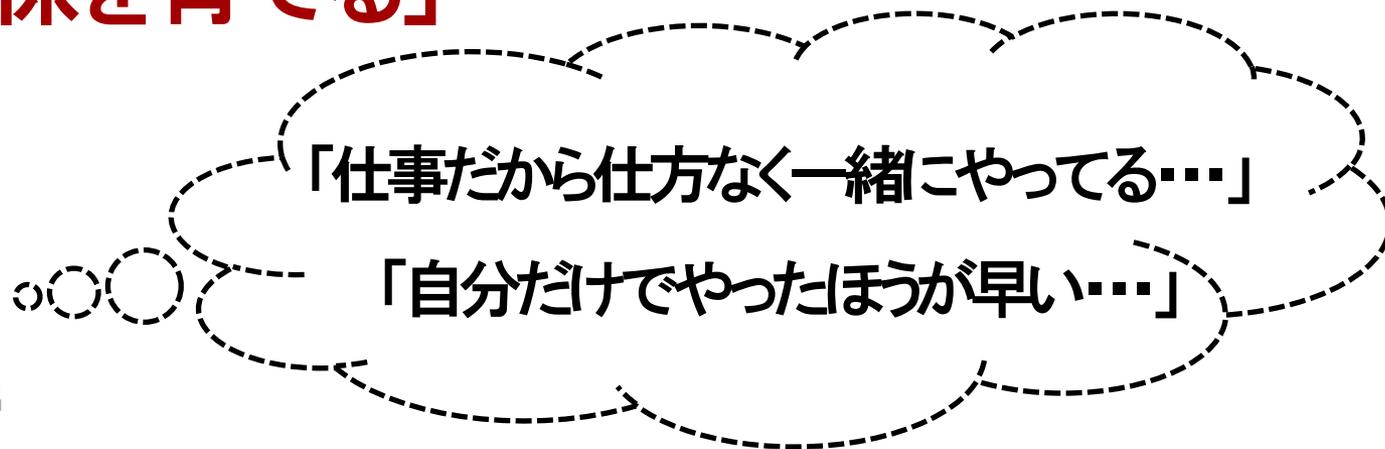
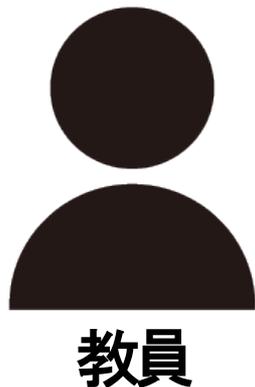
なので、今日の話は

~~教員と「協働」を始めるためにどうするか？~~

 どうやってより「良く」教員と「協働」するか？

私の答。

「信頼関係を育てる」



そのための私の考え方。

 ①教員「主導」が基本。

 ②職員とも「協働」する。

①教員「主導」が基本。

~~教員の言うとおりにやる。~~

 → 教員の考えをふまえて動く。

a. 考えをどうやって実現するか。

b. 考えを更に良いものにするにはどうするか。

①教員「主導」が基本。

a. 考えをどうやって実現するか。

 例: 1210あかりんアワーの企画を考える。

(2012年某日の打ち合わせ。以下先生たちの会話)

・「教員が登壇する企画を考えよう。」

・「色んな学部の教員に、自分の研究について話してもらうのは？」

・「いいね。学生からも、他学科の話聞きたいって声があったし。」

・「研究に関する本も紹介してもらえばいいんじゃない？」

・「じゃあ、その本を置く展示コーナーを作ろうよ。図書館に無い本は
この際買おう。」

①教員「主導」が基本。

a.考えをどうやって実現するか。

ここで私ができることは？

- ・千葉大学にはどんな教員がいるのか？
- ・展示コーナーをどこに、どんな風に作るか？
- ・紹介された本、どうやって買う？

→持ち帰って(上司、関係各所に)相談・調査

→先生達に報告、提案(持ち帰った結果こうなった、このままでは無理でもこうすればできそう)

→更に意見交換

→実現

①教員「主導」が基本。

b.考えを更に良いものにするにはどうするか。

例:ポスターをつくる。



ただいま実施中!

千葉大学・学部学生対象 「学習状況・学習環境アンケート 2013」

- アカデミック・リンク・センターでは、「附属図書館本館」をはじめとする「アカデミック・リンク」をはじめ、千葉大学の学習環境の整備・改善に役立てるため、下記の要領でアンケート調査を行います。
- 学部学生のみなさんの学習行動や情報利用の状況、学習環境等について広く知るためにも、なるべく多くの学生の皆さんにご協力ください。

【回答方法】いずれかの方法で回答してください。

①調査専用ウェブサイトから回答する。



<https://reas2.code.ouj.ac.jp/reas/q/29969>

←スマホでは QR コードからもアクセスできます。
(ガラケーではアクセスできないこともあります)

②“千葉大学 Moodle2013” に設定されている

「学習状況・学習環境アンケート 2013」から回答する。



<http://moodle.chiba-u.jp/moodle13/>

回答者の中から
抽選で2名様に
iPad mini
retina
差し上げます。

【対象】千葉大学に在籍する全ての学部学生

【回答期日】2014年3月10日(日)24時まで

先生「ごちゃつとしてて好みじゃないんだけど…急いでるし、ひとまずこれでもいいかなあ？」

私「(あれとあれが気になる…時間無いか…でもすぐ直せそう)ちょっと待って下さい！」

①教員「主導」が基本。

b.考えを更に良いものにするにはどうするか。

修正後



ただいま実施中！

千葉大学・学部学生対象

「学習状況・学習環境アンケート 2013」

- アカデミック・リンク・センターでは、「附属図書館本館」をはじめとする「アカデミック・リンク」をはじめ、千葉大学の学習環境の整備・改善に役立てるため、下記の要領でアンケート調査を行います。
- 学部学生のみさんの学習行動や情報利用の状況、学習環境等について広く知るためにも、なるべく多くの学生の皆さんにご協力ください。

【回答方法】いずれかの方法で回答してください。

①調査専用ウェブサイトから回答する。



<https://reas2.code.uji.ac.jp/reas/q/29969>

←スマホでは QR コードからもアクセスできます。
(ガラケーではアクセスできないこともあります)

②“千葉大学 Moodle2013”に設定されている

「学習状況・学習環境アンケート 2013」から回答する。



<http://moodle.chiba-u.jp/moodle13/>

回答者の中から
抽選で2名様に
iPad mini
retina
を差し上げます。

【対象】千葉大学に在籍する全ての学部学生

【回答期日】2014年3月10日(日)24時まで

●調査の詳細・個人情報保護等については、アカデミック・リンク・センターのホームページに掲載しております。
<http://alc.chiba-u.jp/> ●問い合わせ 千葉大学アカデミック・リンク・センター TEL 043-290-2243 E-mail alc-info@chiba-u.jp



ただいま実施中！

千葉大学・学部学生対象

「学習状況・学習環境アンケート 2013」

- アカデミック・リンク・センターでは、「附属図書館本館」「アカデミック・リンク」をはじめ、千葉大学の学習環境の整備・改善に役立てるため、下記の要領でアンケート調査を行います。
- 学部学生のみさんの学習行動や情報利用の状況、学習環境等について広く知るためにも、なるべく多くの学生の皆さんにご協力いただきたいと思ひます。

回答者の中から
抽選で2名様に
iPad mini
retina
を差し上げます。

【対象】

千葉大学に在籍する
全ての学部学生

【回答期日】

2014年

3月10日(月)

24時まで

【回答方法】いずれかの方法で回答してください。



①調査専用ウェブサイトから回答する。

<https://reas2.code.uji.ac.jp/reas/q/29969>



②“千葉大学 Moodle2013”に設定されている「学習状況・学習環境アンケート 2013」から回答する。<http://moodle.chiba-u.jp/moodle13/>

※ QR コードは、ガラケーなど一部機種からはアクセスできないこともあります

●問い合わせ 千葉大学アカデミック・リンク・センター TEL 043-290-2243 E-mail alc-info@chiba-u.jp

②職員とも「協働」する。

~~そのチームの教員と職員だけで完結する。~~

 a. チーム内の職員と協働する。

 b. チーム以外の職員とも協働する。

②職員とも「協働」する。

a.チーム内の職員と協働する。

例:利用者調査フォーカスグループインタビュー、
フォトボイス(メイン教員1人+職員5人)

調査設計

→学生にインタビュー

→データ取得

→データ整理→データ整理→データ整理→データ
整理→データ整理

→データ分析(今ここ)...

→分析結果発表(2014.3.27)

②職員とも「協働」する。

b. チーム以外の職員とも協働する。

🍎「〇〇チームのこの話はうちにも関係ありそう」

🍎「さっきの件、この人にも相談した方がいいかも」

→「理解者」を増やすことでよりスムーズに進む。

🍎「今日の準備ちょっと協力してもらおう」

🍎「あの人にもアイデアもらいたい」

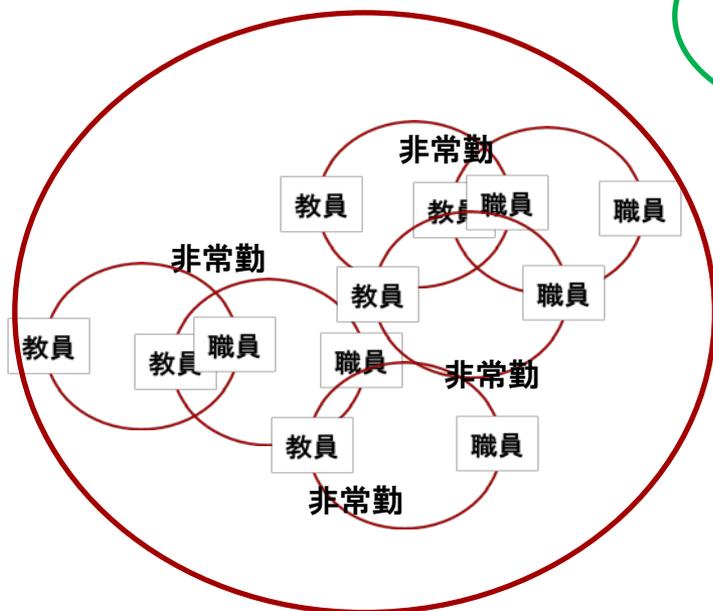
→「巻き込む」ことでアイデアに広がり生まれる。

…結構難しい。

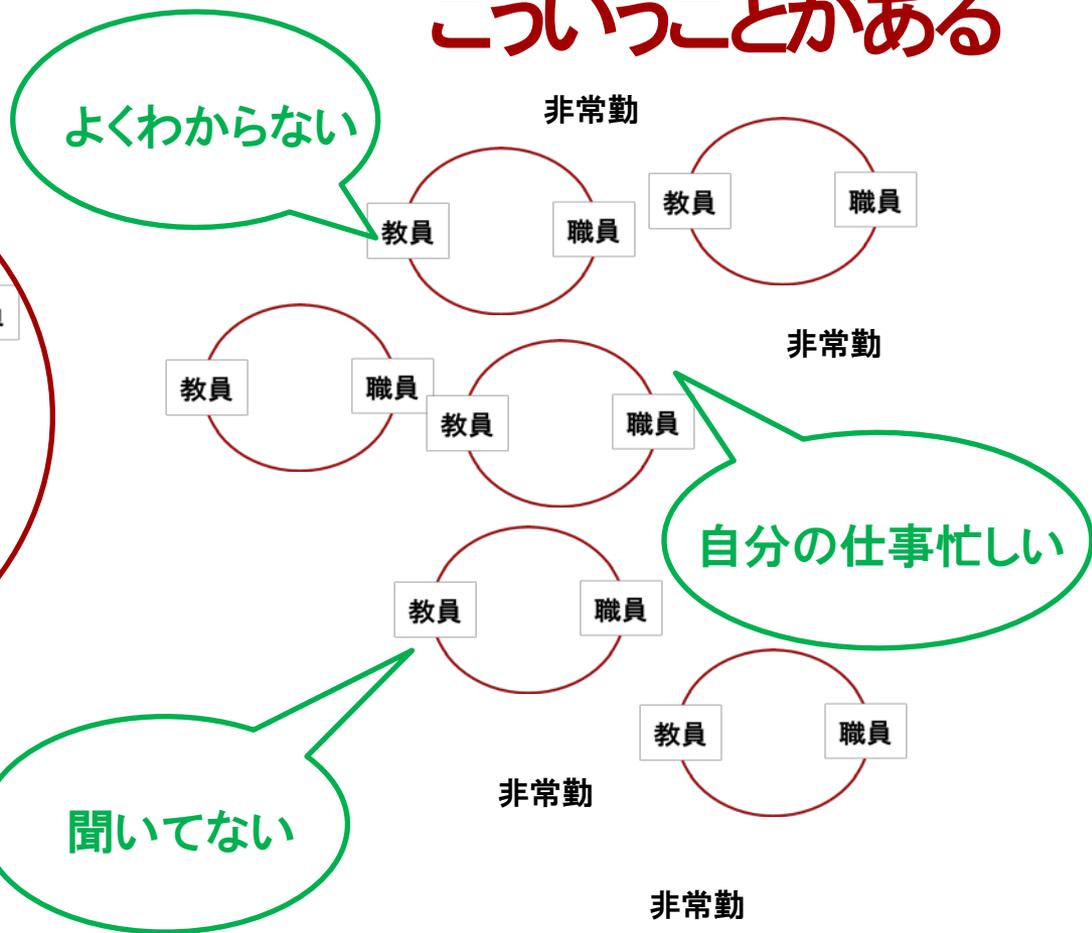
②職員とも「協働」する。

b. チーム以外の職員とも協働する。

理想形



こういうことがある



②職員とも「協働」する。

b.チーム以外の職員とも協働する。

🍎 情報を聞きに行く(例:各プロジェクトの振り返り会への参加)

🍎 参加してもらおう(例:あかりんアワーの準備を手伝ってもらおう、企画のアドバイスをもらう)

🍎 関係(しそうな人)に早めに相談する(公式の会議+日頃のコミュニケーション)



🍎 最近始めたこと…**情報交換会**(課、常/非常勤、図書系等関係なく集まる機会。昼休み。12月から現在5回目。)

まとめ

 どうやってより「良く」教員と「協働」するか？

→信頼関係を作る

 ①教員「主導」が基本＝教員の考えをふまえて動く。

a.それをどうやって実現するか。

b.それを更に良くするにはどうするか。

 ②職員とも「協働」する

a.チーム内の職員と協働する。

b.チーム以外の職員とも協働する。

まとめ

教員の経験値(教育、研究、アイデア、…)

+

自分(職員)が提供できるリソース
(現場の声、特技、ひらめき、職員間をつなぐ、…)

↓

「協働」してこそその成果がうまれる。
信頼関係が次の「協働」をうむ。